

# 結城の高校生がタイで交流

公益財団法人「茨城国際親善厚生財団（IIF）」の日タイ高校生の教育交流で、結城市の高校生と先生の7人が7月31日から8月8日の日程でタイを訪問しました。タイを訪問したのは結城一高の篠崎東雄教諭、大久保裕葉さん、結城二高の佐藤剛教頭、町田恋乃さん、鬼怒商業の野澤武久教諭、コミヤ・ジョアナさん、吉川璃々花さん。

7人は、タイ北部のパヤオ・ピタヤコム高校やメーサイ高校で高校生活を体験。パヤオ大学やメーサイ市役所、メーサイ病院などからも歓迎を受け、メーサイ市を拠点に麻薬撲滅活動を行うドイトンプロジェクトなどを視察しました。

パヤオ・ピタヤコム高校では日本の生徒が折り紙を教えたり、日本語の授業を手伝い、タイ料理を学びました。メーサイ高校では民族衣装を着せてもらってタイのダンスを習ったりしました。4月に来日、1カ月間の日本の高校生活を体験したメーサイ高校のヌンさんとレオ君、パヤオ・ピタヤコム高校のピームさんとダーリンさんとの再会も果たし、感激ひとしお。象に乗ったり、麻薬博物館で麻薬の悲惨さを学んだり、タイの托鉢を初めて経験しました。

大久保さんは「ヌンさんやレオ君といっぱい話をしました。今回の経験で、海外のボランティアをしてみたい」、町田さんは「タイの人はとてもフレンドリーだった。またタイに行きたい」。吉川さんは「生徒の数がとても多くて驚いた」コミヤさんは「笑顔の素敵な国でした」と話していました。

2019年8月27日

